

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-23096

(P2019-23096A)

(43) 公開日 平成31年2月14日(2019.2.14)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 23/00 (2006.01)	B 6 5 D 23/00 L	2 E 1 7 2
E 0 4 F 21/02 (2006.01)	E 0 4 F 21/02 A	3 E 0 6 2
E 0 4 G 21/02 (2006.01)	E 0 4 G 21/02 1 O 1	
B 6 5 D 25/20 (2006.01)	B 6 5 D 25/20 R	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2017-142674 (P2017-142674)	(71) 出願人	303056368 東急建設株式会社 東京都渋谷区渋谷一丁目16番14号
(22) 出願日	平成29年7月24日 (2017.7.24)	(74) 代理人	240000327 弁護士 弁護士法人クレオ国際法律特許事務所
		(72) 発明者	伊名田 治幸 東京都渋谷区渋谷1丁目16番14号 東急建設株式会社内
		Fターム(参考)	2E172 BA02 DE02 3E062 AA09 AB04 AC02 BA20 BB02 BB10 CA12 CA15

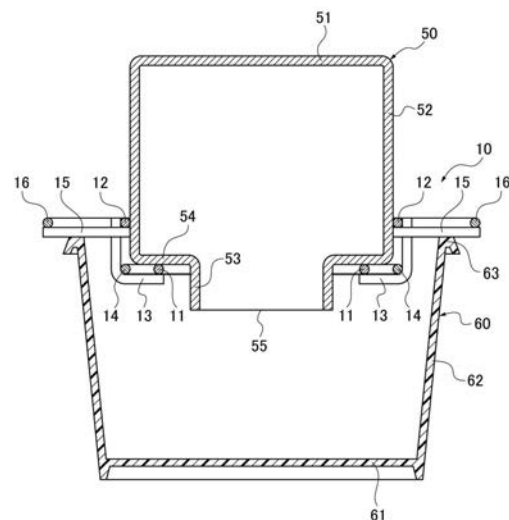
(54) 【発明の名称】 粘性流体の収容容器用架台

(57) 【要約】

【課題】 容器に収容された粘性流体を容易に使用することができる粘性流体の収容容器用架台を提供する。

【解決手段】 粘性流体の収容容器用架台10は、粘性流体を収容した収容容器50から、粘性流体を、受容容器60に移す。この粘性流体の収容容器用架台10において、口部55を下に向けた収容容器50の上下方向の荷重を支える第1支持部11と、口部55を下に向けた収容容器50の水平方向の荷重を支える第2支持部12と、受容容器60の開口部63に当接する当接部15と、を有する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

粘性流体を収容した収容容器から、該粘性流体を、受容容器に移すための粘性流体の収容容器用架台において、

口部を下に向けた前記収容容器の上下方向の荷重を支える第 1 支持部と、
前記口部を下に向けた前記収容容器の水平方向の荷重を支える第 2 支持部と、
前記受容容器の開口部に当接する当接部と、を有する
ことを特徴とする粘性流体の収容容器用架台。

【請求項 2】

前記第 2 支持部は、水平方向に移動可能である

10

ことを特徴とする請求項 1 に記載の粘性流体の収容容器用架台。

【請求項 3】

前記受容容器を仕切る仕切体を備え、

前記第 1 支持部及び前記第 2 支持部は、前記仕切体を挟んで一對に設けられる

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の粘性流体の収容容器用架台。

【請求項 4】

前記第 1 支持部を、上下方向の異なる位置に複数設け、

前記第 2 支持部を、水平方向の異なる位置に複数設け、

前記第 1 支持部は、前記口部を下に向けた前記収容容器の水平方向の荷重も支え、

前記第 2 支持部は、前記口部を下に向けた前記収容容器の上下方向の荷重も支える

20

ことを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか一項に記載の粘性流体の収容容器用架台。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、粘性流体の収容容器用架台に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、例えばコンクリート等の補修工事では、容器に収容されたエポキシ樹脂等の粘性流体を取り出して使用することが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。このような場合、杓子を使用して、容器に収容された粘性流体を取り出す必要がある。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2016 - 196792 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、このような使用方法では、粘性流体を取り出す作業に時間がかかる、という問題がある。

【0005】

40

そこで、本発明は、容器に収容された粘性流体を容易に使用することができる粘性流体の収容容器用架台を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

前記目的を達成するために、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、粘性流体を収容した収容容器から、該粘性流体を、受容容器に移すための粘性流体の収容容器用架台において、口部を下に向けた前記収容容器の上下方向の荷重を支える第 1 支持部と、前記口部を下に向けた前記収容容器の水平方向の荷重を支える第 2 支持部と、前記受容容器の開口部に当接する当接部と、を有することを特徴とする。

【0007】

50

ここで、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記第 2 支持部は、水平方向に移動可能としても良い。

【 0 0 0 8 】

また、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記受容容器を仕切る仕切体を備え、前記第 1 支持部及び前記第 2 支持部を、前記仕切体を挟んで一対に設けても良い。

【 0 0 0 9 】

また、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記第 1 支持部を、上下方向の異なる位置に複数設け、前記第 2 支持部を、水平方向の異なる位置に複数設け、前記第 1 支持部は、前記収容容器の水平方向の荷重も支え、前記第 2 支持部は、前記収容容器の上下方向の荷重も支えても良い。

10

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

このように構成された本発明の粘性流体の収容容器用架台は、粘性流体を収容容器から容易に取り出すことができる。また、施工時間の短縮化を図れる。また、材料を無駄にしまうことを防止することができる。また、二液を混合して使用する場合であっても、計量する手間と時間を省きつつ、適正な混合割合とすることができる。

【 0 0 1 1 】

また、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記第 2 支持部を、水平方向に移動可能とすることで、収容容器のサイズによらず、収容容器用架台を使用することができる。

20

【 0 0 1 2 】

また、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記第 1 支持部及び前記第 2 支持部を、前記仕切体を挟んで一対に設けることで、二液を混合して使用する場合に、所望のタイミングで、2つの粘性流体を混合することができる。

【 0 0 1 3 】

また、本発明の粘性流体の収容容器用架台は、前記第 1 支持部が、前記収容容器の水平方向の荷重も支え、前記第 2 支持部が、前記収容容器の上下方向の荷重も支えることで、異なるサイズの収容容器に対して、収容容器用架台を使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

【図 1】実施例 1 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

30

【図 2】実施例 1 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。

【図 3】実施例 2 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

【図 4】実施例 2 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。

【図 5】実施例 2 の変形例の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

【図 6】実施例 3 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

【図 7】実施例 3 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。

【図 8】実施例 3 の収容容器用架台の作用を説明する説明図である。

【図 9】実施例 4 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

【図 10】実施例 4 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

40

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 5 】

以下、本開示による粘性流体の収容容器用架台を実現する実施形態を、図面に示す実施例 1 ～実施例 4 に基づいて説明する。

【実施例 1】

【 0 0 1 6 】

まず、構成を説明する。

実施例 1 における粘性流体の収容容器用架台 10 は、樹脂製の収容容器 50 に収容されたアクリル樹脂（粘性流体の一例）を、バケツ（受容容器の一例）60 に移すために使用される。以下、実施例 1 の構成を、「容器の構成」、「バケツの構成」、「収容容器用架台の構成」、に分けて説明する。

50

【 0 0 1 7 】

[容器の構成]

収容容器 5 0 は、図 1 に示すように、底部 5 1 を有する円筒形の胴部 5 2 と、胴部 5 2 より縮径した首部 5 3 と、胴部 5 2 と首部 5 3 とを接続する肩部 5 4 と、首部 5 3 の先端に開口を形成する口部 5 5 と、を有する。首部 5 3 は、螺旋状に凸部が形成され、キャップ（不図示）が着脱自在となっている。

【 0 0 1 8 】

[バケツの構成]

バケツ 6 0 は、底部 6 1 と、底部 6 1 から起立した円筒状の壁部 6 2 と、壁部 6 2 の先端で開口部を形成するフランジ部 6 3 と、を有する。

10

【 0 0 1 9 】

[収容容器用架台の構成]

図 1 は、実施例 1 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。図 2 は、実施例 1 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。以下、図 1 及び図 2 に基づいて、実施例 1 の収容容器用架台の構成を説明する。

【 0 0 2 0 】

収容容器用架台 1 0 は、図 1 及び図 2 に示すように、第 1 支持部 1 1 と、第 2 支持部 1 2 と、接続部 1 3 と、内側連結部 1 4 と、当接部 1 5 と、外側連結部 1 6 と、を備える。

【 0 0 2 1 】

第 1 支持部 1 1 は、棒状の鉄筋を円形に加工して形成される。第 1 支持部 1 1 の外径は、収容容器 5 0 の首部 5 3 の外径より大きく形成する。第 1 支持部 1 1 は、収容容器用架台 1 0 に設置された収容容器 5 0 の肩部 5 4 を下方から支持する。即ち、第 1 支持部 1 1 は、収容容器 5 0 の上下方向の荷重を支える。従って、第 1 支持部 1 1 は、収容容器 5 0 からの上下方向の力を支える。

20

【 0 0 2 2 】

第 2 支持部 1 2 は、棒状の鉄筋を、第 1 支持部 1 1 と同心円状に円形に加工して形成される。第 2 支持部 1 2 は、第 1 支持部 1 1 より、上方に形成される。第 2 支持部 1 2 の内径は、収容容器 5 0 の胴部 5 2 の外径より大きく形成される。第 2 支持部 1 2 は、収容容器用架台 1 0 に設置された収容容器 5 0 の胴部 5 2 を側方から支持する。即ち、第 2 支持部 1 2 は、収容容器 5 0 の水平方向の荷重を支える。従って、第 2 支持部 1 2 は、収容容器 5 0 からの水平方向の力を支える。

30

【 0 0 2 3 】

内側連結部 1 4 は、棒状の鉄筋を、第 1 支持部 1 1 と同心円状に円形に加工して形成される。内側連結部 1 4 は、第 1 支持部 1 1 の径方向外側に形成される。内側連結部 1 4 の内径は、第 2 支持部 1 2 の内径と略同じ大きさで形成される。

【 0 0 2 4 】

接続部 1 3 は、棒状の鉄筋を直角に折り曲げ加工されて形成される。接続部 1 3 は、第 2 支持部 1 2 の周方向に、均等に 4 つ配置される。接続部 1 3 の一方の端部には、第 1 支持部 1 1 が、溶接等により固定される。接続部 1 3 の他方の端部には、第 2 支持部 1 2 が、溶接等により固定される。接続部 1 3 の直角に折り曲げられた部分には、内側連結部 1 4 が、溶接等により固定される。

40

【 0 0 2 5 】

外側連結部 1 6 は、棒状の鉄筋を、第 1 支持部 1 1 と同心円状に円形に加工して形成される。外側連結部 1 6 の内径は、バケツ 6 0 のフランジ部 6 3 の外径より大きく形成される。外側連結部 1 6 は、第 2 支持部 1 2 の径方向外側に形成される。

【 0 0 2 6 】

当接部 1 5 は、棒状の鉄筋により形成される。当接部 1 5 は、第 2 支持部 1 2 の周方向に、均等に 4 つ配置される。当接部 1 5 の一方の端部には、第 2 支持部 1 2 が、溶接等により固定される。当接部 1 5 の他方の端部には、外側連結部 1 6 が、溶接等により固定される。バケツ 6 0 のフランジ部 6 3 が、当接部 1 5 と当接することで、収容容器用架台 1

50

0 がバケツ 6 0 に配置される。

【 0 0 2 7 】

このように構成された収容容器用架台 1 0 をバケツ 6 0 に配置し、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 1 0 に、収容容器 5 0 を配置する。そうすると、収容容器 5 0 の肩部 5 4 が、下方から収容容器用架台 1 0 の第 1 支持部 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 の胴部 5 2 が、側方から収容容器用架台 1 0 の第 2 支持部 1 2 に支持される。

【 0 0 2 8 】

次に、作用を説明する。

実施例 1 の収容容器用架台における作用を説明する。

【 0 0 2 9 】

[比較作用]

例えば、容器に収容された粘性流体を、杓子で取り出して使用する場合を比較例とする。

【 0 0 3 0 】

比較例の場合、以下のような課題がある。

(1) 粘性流体を収容容器から杓子で取り出す作業に手間と時間がかかってしまう。特に、収容容器は、胴部と、胴部より縮径した首部とから形成されている場合、首部が邪魔になり、粘性流体を収容容器から杓子で取り出すことが困難となる。

(2) 収容容器の中の粘性流体を杓子ですくいきれないため、収容容器の中の粘性流体を全て使い切ることができず、材料を無駄にしてしまう。

(3) 二液（例えば、主剤と硬化剤）の粘性流体を混合して使用する場合、一液と二液を取り出し、それぞれを計量して使用することになる。この場合、一液と二液を取り出す作業と、それぞれを計量する作業に手間と時間がかかってしまう。

【 0 0 3 1 】

これに対し、実施例 1 では、粘性流体を収容した収容容器 5 0 から、粘性流体を、受容容器 6 0 に移すための粘性流体の収容容器用架台において、口部 5 5 を下に向けた収容容器 5 0 の上下方向の荷重を支える第 1 支持部 1 1 と、口部 5 5 を下に向けた収容容器 5 0 の水平方向の荷重を支える第 2 支持部 1 2 と、受容容器 6 0 のフランジ部 6 3 に当接する当接部 1 5 と、を有する（図 1 と図 2 ）。

【 0 0 3 2 】

これにより、受容容器 6 0 に載せた収容容器用架台 1 0 に、収容容器 5 0 を、口部 5 5 を下向きにした状態で、保持することができる。そのため、粘性流体を収容容器 5 0 から容易に取り出すことができる。また、予め、収容容器 5 0 を収容容器用架台 1 0 にセットすれば、施工時にすぐに粘性流体を使用することができる。そのため、施工時間の短縮化を図れる。また、収容容器 5 0 に収容されている粘性流体を全て受容容器 6 0 に出し切ることができる。そのため、材料を無駄にしてしまうことを防止する。また、二液を混合して使用する場合であっても、先ず一液について受容容器 6 0 に出し切った後、二液について受容容器 6 0 に出し切ることができる。そのため、計量する手間と時間を省きつつ、適正な混合割合とすることができる。

【 実施例 2 】

【 0 0 3 3 】

まず、構成を説明する。

図 3 は、実施例 2 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。図 4 は、実施例 2 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。以下、図 3 及び図 4 に基づいて、実施例 2 の収容容器用架台の構成を説明する。

【 0 0 3 4 】

実施例 2 の収容容器用架台は、第 2 支持部が移動可能である点で、実施例 1 の収容容器用架台と異なる。

【 0 0 3 5 】

収容容器用架台 1 1 0 は、図 3 及び図 4 に示すように、第 1 支持部 1 1 1 と、第 2 支持

10

20

30

40

50

部 1 1 2 と、接続部 1 1 3 と、内側連結部 1 1 4 と、第 3 支持部 1 1 5 と、を備える。

【 0 0 3 6 】

第 1 支持部 1 1 1 は、棒状の鉄筋を長円形に加工して形成される。第 1 支持部 1 1 1 の短手方向の長さ（短辺の長さ）は、収容容器 5 0 の首部 5 3 の外径より小さく形成される。第 1 支持部 1 1 1 は、収容容器用架台 1 1 0 に設置された収容容器 5 0 の口部 5 5 を下方から支持する。

【 0 0 3 7 】

内側連結部 1 1 4 は、棒状の鉄筋を、円形に加工して形成される。内側連結部 1 1 4 は、第 1 支持部 1 1 1 の上方に形成される。内側連結部 1 1 4 は、第 1 支持部 1 1 1 に溶接等により固定される。

10

【 0 0 3 8 】

接続部 1 1 3 は、四角ナットで形成される。接続部 1 1 3 の一方端には、ナット穴が形成され、後述するボルト 1 1 2 a が接続部 1 1 3 のナット穴に連結される。接続部 1 1 3 の他方端には、内側連結部 1 1 4 が、溶接等により固定される。

【 0 0 3 9 】

第 2 支持部 1 1 2 は、ボルト 1 1 2 a とナット 1 1 2 b で形成される。第 2 支持部 1 1 2 は、内側連結部 1 1 4 の上方に形成される。第 2 支持部 1 1 2 は、内側連結部 1 1 4 の周方向に、均等に 4 つ配置される。ボルト 1 1 2 a の軸方向中間部分には、接続部 1 1 3 のナット穴が連結される。ボルト 1 1 2 a の先端には、ナット 1 1 2 b が連結される。

【 0 0 4 0 】

ナット 1 1 2 b の位置は、ボルト 1 1 2 a を回転することで、水平方向に移動可能とする。ナット 1 1 2 b の位置は、収容容器用架台 1 1 0 に設置された収容容器 5 0 の首部 5 3 の外径に合う位置に調整され、首部 5 3 を側方から支持する。即ち、ナット 1 1 2 b は、水平方向に移動可能となる。

20

【 0 0 4 1 】

第 3 支持部 1 1 5 は、棒状の鉄筋を長円形に加工して形成される。第 3 支持部 1 1 5 は、第 1 支持部 1 1 1 の下方に形成される。第 3 支持部 1 1 5 は、第 1 支持部 1 1 1 に溶接等により固定される。バケツ 6 0 のフランジ部 6 3 が、第 3 支持部 1 1 5 と当接することで、収容容器用架台 1 1 0 がバケツ 6 0 に配置される。

【 0 0 4 2 】

このように構成された収容容器用架台 1 1 0 をバケツ 6 0 に配置し、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 1 1 0 に、収容容器 5 0 を配置する。そうすると、収容容器 5 0 の口部 5 5 が、下方から収容容器用架台 1 1 0 の第 1 支持部 1 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 の首部 5 3 が、側方から収容容器用架台 1 1 0 の第 2 支持部 1 1 2 に支持される。

30

【 0 0 4 3 】

次に、実施例 2 の変形例の収容容器用架台を説明する。

図 5 は、実施例 2 の変形例の収容容器用架台の構成を示す構成図である。

【 0 0 4 4 】

実施例 2 の変形例の収容容器用架台 1 1 0 A は、第 2 支持部の位置が実施例 2 と異なる。

40

【 0 0 4 5 】

実施例 2 の変形例の接続部 1 1 3 A は、実施例 2 の接続部 1 1 3 より長い四角ナットで形成される。接続部 1 1 3 の一方端には、ナット穴が形成され、ボルト 1 1 2 a が接続部 1 1 3 のナット穴に連結される。接続部 1 1 3 の他方端には、内側連結部 1 1 4 が固定される。

【 0 0 4 6 】

ナット 1 1 2 b の位置は、収容容器 5 0 の胴部 5 2 の外径に合う位置に調整され、胴部 5 2 を側方から支持する。即ち、ナット 1 1 2 b は、水平方向に移動可能となる。

【 0 0 4 7 】

50

このように構成された収容容器用架台 1 1 0 A をバケツ 6 0 に配置し、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 1 1 0 に、収容容器 5 0 を配置する。そうすると、収容容器 5 0 の口部 5 5 が、下方から収容容器用架台 1 1 0 の第 1 支持部 1 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 の首部 5 3 が、側方から収容容器用架台 1 1 0 の第 2 支持部 1 1 2 に支持される。

【 0 0 4 8 】

次に、作用を説明する。

実施例 2 では、第 2 支持部 1 2 は、水平方向に移動可能である（図 3 ～ 図 5 ）。

【 0 0 4 9 】

これにより、収容容器 5 0 のサイズに合わせて、第 2 支持部 1 1 2 の位置を調整することができる。そのため、収容容器 5 0 のサイズによらず、収容容器用架台 1 1 0 , 1 1 0 A を使用することができる。

10

【 実施例 3 】

【 0 0 5 0 】

まず、構成を説明する。

図 6 は、実施例 3 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。図 7 は、実施例 3 の収容容器用架台の構成を示す平面図である。以下、図 6 及び図 7 に基づいて、実施例 3 の収容容器用架台の構成を説明する。

【 0 0 5 1 】

実施例 3 の収容容器用架台は、2 つの収容容器を装着できる点で、実施例 1 の収容容器用架台と異なる。

20

【 0 0 5 2 】

収容容器用架台 2 1 0 は、図 6 及び図 7 に示すように、仕切体 2 1 8 を有し、仕切体 2 1 8 を挟んで、第 1 支持部 1 1、第 2 支持部 1 2、接続部 1 3、及び内側連結部 1 4 が、対になって設けられる。

【 0 0 5 3 】

さらに、収容容器用架台 2 1 0 は、当接部 2 1 5 と、外側連結部 2 1 6 と、仕切体保持部 2 1 7 と、を備える。

【 0 0 5 4 】

外側連結部 2 1 6 は、棒状の鉄筋を円形に加工して形成される。外側連結部 2 1 6 の内径は、バケツ 6 0 のフランジ部 6 3 の外径より大きく形成される。

30

【 0 0 5 5 】

当接部 2 1 5 は、棒状の鉄筋により形成される。当接部 2 1 5 は、第 2 支持部 1 2 の周方向に、均等に 4 つ配置される。3 つの当接部 2 1 5 の一方の端部には、第 2 支持部 1 2 が、溶接等により固定される。3 つの当接部 2 1 5 の他方の端部には、外側連結部 2 1 6 が、溶接等により固定される。1 つの当接部 2 1 5 は、端部が第 2 支持部 1 2 に、溶接等により固定され、2 つの第 2 支持部 1 2 間を連結する。バケツ 6 0 のフランジ部 6 3 が、当接部 2 1 5 と当接することで、収容容器用架台 2 1 0 がバケツ 6 0 に配置される。

【 0 0 5 6 】

仕切体 2 1 8 は、板金を加工することで形成される。仕切体 2 1 8 は、収容容器用架台 2 1 0 がバケツ 6 0 に載置された状態で、バケツ 6 0 の収容空間を 2 つの領域に区画する。なお、仕切体 2 1 8 は、PP（ポリプロピレン）、PE（ポリエチレン）、POM（ポリアセタール）樹脂等の樹脂自体が接着しにくい材質であっても、その表面に、例えば、コーティング剤の塗布による撥水加工や、レーザーによる表面加工による撥水加工が施されていても良い。撥水加工は、この態様に限定されず、粘性流体をはじく加工であれば良い。

40

【 0 0 5 7 】

仕切体保持部 2 1 7 は、棒状の鉄筋により形成される。仕切体保持部 2 1 7 は、2 つの第 2 支持部 1 2 間を連結する当接部 2 1 5 の略中央に、当接部 2 1 5 に直交して設けられる。仕切体保持部 2 1 7 には、仕切体 2 1 8 の一方端が、溶接等により固定される。仕切

50

体保持部 2 1 7 の両端は、外側連結部 2 1 6 に、溶接等により固定される。仕切体保持部 2 1 7 の中間部分は、2 つの第 2 支持部 1 2 間を連結する当接部 2 1 5 に、溶接等により固定される。

【 0 0 5 8 】

このように構成された収容容器用架台 2 1 0 をバケツ 6 0 に配置し、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 2 1 0 に、2 つの収容容器 5 0 を配置する。そうすると、収容容器 5 0 の肩部 5 4 が、下方から収容容器用架台 2 1 0 の第 1 支持部 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 の胴部 5 2 が、側方から収容容器用架台 2 1 0 の第 2 支持部 1 2 に支持される。

【 0 0 5 9 】

10

次に、作用を説明する。

実施例 3 の収容容器用架台における作用を説明する。

【 0 0 6 0 】

ところで、2 つの粘性流体、例えば、主剤と硬化剤を混合して使用する場合、混合するタイミングが早すぎると、施工時には混合剤の硬化が進み、所望の混合剤を得ることができない、という課題がある。

【 0 0 6 1 】

実施例 3 では、受容容器 6 0 を仕切る仕切体 2 1 8 を備え、第 1 支持部 1 1 及び第 2 支持部 1 2 は、仕切体 2 1 8 を挟んで一対に設けられる（図 6 と図 7 ）。

【 0 0 6 2 】

20

これにより、収容容器 5 0 から受容容器 6 0 へ粘性流体を移し替える際には、受容容器 6 0 の中で、2 つの粘性流体を分けることができる。また、図 8 に示すように、収容容器用架台 2 1 0 をバケツ 6 0 から取り外すことで、仕切体 2 1 8 を容易に取り外すことができる。そのため、所望のタイミングで、2 つの粘性流体 W 1 , W 2 を混合することができる。

【 実施例 4 】

【 0 0 6 3 】

まず、構成を説明する。

図 9 は、実施例 4 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。図 1 0 は、実施例 4 の収容容器用架台の構成を示す構成図である。以下、図 9 及び図 1 0 に基づいて、実施例 4 の収容容器用架台の構成を説明する。

30

【 0 0 6 4 】

実施例 4 の収容容器用架台は、第 1 支持部を複数有する点で、実施例 1 の収容容器用架台と異なる。

【 0 0 6 5 】

収容容器用架台 3 1 0 は、実施例 1 の収容容器用架台 1 0 に、第 1 支持部 3 1 1 と、接続部 3 1 3 と、内側連結部 3 1 4 と、をさらに備える。

【 0 0 6 6 】

第 1 支持部 3 1 1 は、棒状の鉄筋を円形に加工して形成される。第 1 支持部 3 1 1 の外径は、収容容器 5 0 より小さい収容容器 5 0 A の首部 5 3 A の外径より大きくし、収容容器 5 0 A の胴部 5 2 A の外径よりも小さく形成する。第 1 支持部 3 1 1 は、第 1 支持部 1 1 より下方に配置される。

40

【 0 0 6 7 】

接続部 3 1 3 は、棒状の鉄筋を直角に折り曲げ加工されて形成される。接続部 3 1 3 は、第 1 支持部 1 1 の周方向に、均等に 4 つ配置される。接続部 3 1 3 の一方の端部には、第 1 支持部 1 1 が、溶接等により固定される。接続部 3 1 3 の他方の端部には、第 1 支持部 3 1 1 が、溶接等により固定される。接続部 3 1 3 の直角に折り曲げられた部分には、内側連結部 3 1 4 が、溶接等により固定される。

【 0 0 6 8 】

このように構成された収容容器用架台 3 1 0 をバケツ 6 0 に配置し、図 9 に示すように

50

、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 3 1 0 に、収容容器 5 0 を配置する。そうすると、収容容器 5 0 の肩部 5 4 が、下方から収容容器用架台 3 1 0 の第 1 支持部 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 の胴部 5 2 が、側方から収容容器用架台 3 1 0 の第 2 支持部 1 2 に支持される。

【 0 0 6 9 】

一方、収容容器用架台 3 1 0 をバケツ 6 0 に配置し、図 1 0 に示すように、バケツ 6 0 に配置した収容容器用架台 3 1 0 に、収容容器 5 0 より小さいサイズの収容容器 5 0 A を配置する。そうすると、収容容器 5 0 A の肩部 5 4 A が、下方から収容容器用架台 3 1 0 の第 1 支持部 3 1 1 に支持される。また、収容容器 5 0 A の胴部 5 2 A が、側方から収容容器用架台 3 1 0 の第 1 支持部 1 1 に支持される。

10

【 0 0 7 0 】

即ち、収容容器の上下方向の荷重を支える第 1 支持部 1 1 は、収容容器の水平方向の荷重を支える第 2 支持部としても機能する。従って、収容容器からの上下方向の力を支える第 1 支持部 1 1 は、収容容器からの水平方向の力を支える第 2 支持部としても機能する。なお、第 2 支持部をさらに有し、収容容器の上下方向の荷重を支える第 1 支持部としても機能させても良い。即ち、第 2 支持部をさらに有し、収容容器からの上下方向の力を支える第 1 支持部としても機能させても良い。

【 0 0 7 1 】

次に、作用を説明する。

実施例 4 の収容容器用架台における作用を説明する。

20

【 0 0 7 2 】

実施例 4 では、第 1 支持部 1 1 , 3 1 1 を、上下方向の異なる位置に複数設け、第 2 支持部 1 2 を、水平方向の異なる位置に複数設け、第 1 支持部 1 1 は、口部 5 5 , 5 5 A を下に向けた収容容器 5 0 , 5 0 A の水平方向の荷重も支え、第 2 支持部 1 2 は、口部 5 5 , 5 5 A を下に向けた収容容器 5 0 , 5 0 A の上下方向の荷重も支える (図 9 と図 1 0) 。

【 0 0 7 3 】

これにより、異なるサイズの収容容器を収容容器用架台 3 1 0 に配置することができる。そのため、異なるサイズの収容容器 5 0 , 5 0 A に対して、収容容器用架台 3 1 0 を使用することができる。

30

【 0 0 7 4 】

以上、本開示の収容容器用架台を実施例 1 ~ 4 に基づき説明してきた。しかし、具体的な構成については、これらの実施例に限られるものではなく、特許請求の範囲の各請求項に係る発明の要旨を逸脱しない限り、各実施例の組み合わせ、設計の変更や追加等は許容される。即ち、実施例 1 ~ 4 における収容容器用架台の各構成要素の個数、材質、形状等は、本発明を実施するための一例を示したものに過ぎず、本発明の効果を発揮し得る範囲内であれば、どのような個数、材質、形状であっても適用可能である。

【 0 0 7 5 】

実施例 1 ~ 4 では、受容容器 6 0 を円筒状の壁部 6 2 を有するバケツとする例を示した。しかし、受容容器としては、この態様に限定されず、矩形状の容器であっても良い。

40

【 0 0 7 6 】

実施例 1 ~ 4 では、収容容器 5 0 を円筒形の胴部 5 2 を有する例を示した。しかし、収容容器としては、矩形状の胴部を有する容器であっても良い。

【 0 0 7 7 】

実施例 1 ~ 4 では、収容容器は、首部 5 3 を有する例を示した。しかし、収容容器としては、首部を有しなくても良い。

【 0 0 7 8 】

実施例 1 ~ 4 では、粘性流体の収容容器用架台は、アクリル樹脂を収容する収容容器に適用する例を示した。しかし、粘性流体の収容容器用架台は、粘性流体のある液体の収容容器に適用できる。

50

【 0 0 7 9 】

実施例 1 ～ 4 では、収容容器用架台の構成要素として、鉄筋を使用する例を示した。しかし、収容容器用架台の構成要素としては、鉄筋を使用する態様に限定されず、例えば、鋼材や樹脂系材料を使用しても良い。

【 0 0 8 0 】

実施例 1 ～ 4 では、粘性流体の収容容器用架台は、一液型又は二液型の粘性流体に適用する例を示した。しかし、粘性流体の収容容器用架台は、三液型以上の粘性流体に適用しても良い。

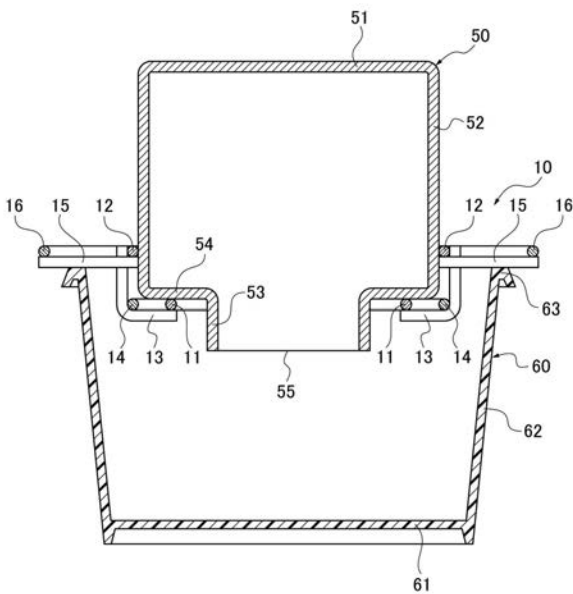
【 符号の説明 】

【 0 0 8 1 】

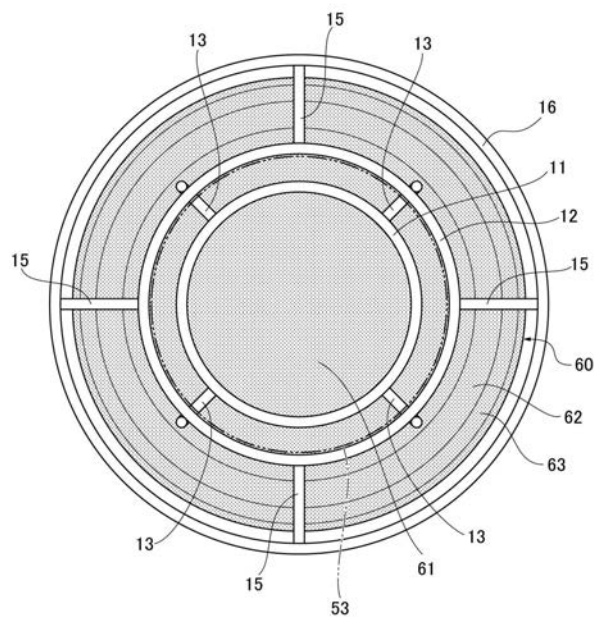
- | | |
|-------|---------------|
| 1 0 | 粘性流体の収容容器用架台 |
| 1 1 | 第 1 支持部 |
| 1 2 | 第 2 支持部 |
| 1 5 | 当接部 |
| 5 0 | 収容容器 |
| 6 0 | バケツ（受容容器の一例） |
| 6 3 | フランジ部（開口部の一例） |
| 2 1 8 | 仕切体 |

10

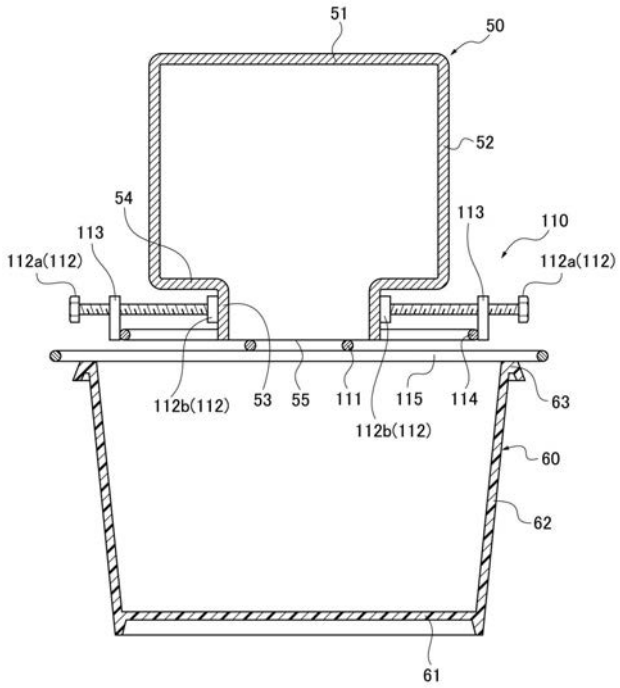
【 図 1 】



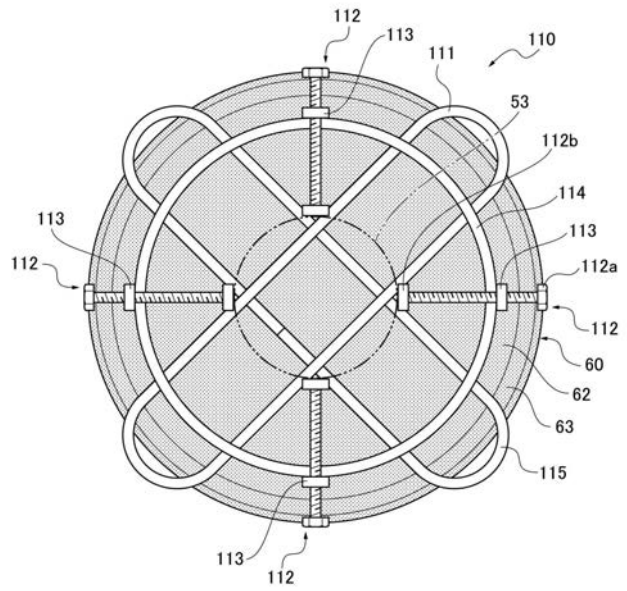
【 図 2 】



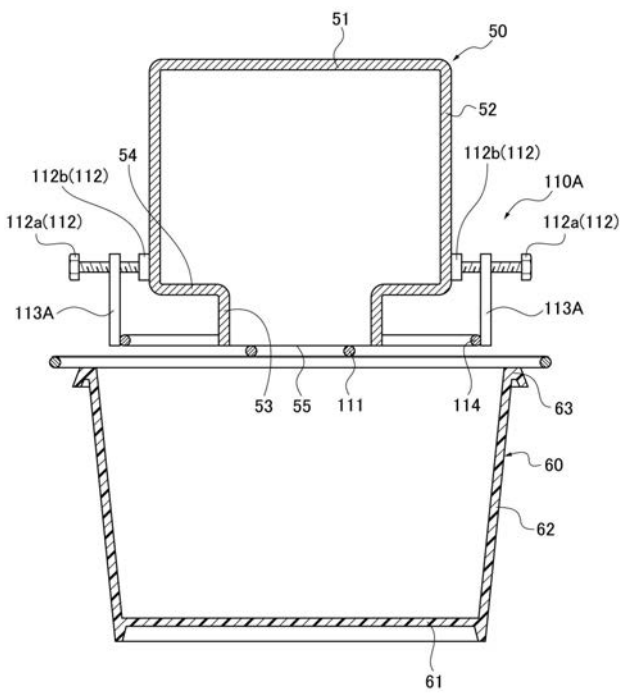
【図 3】



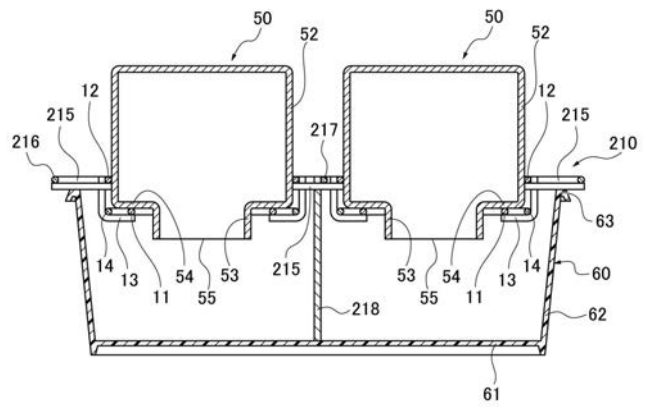
【図 4】



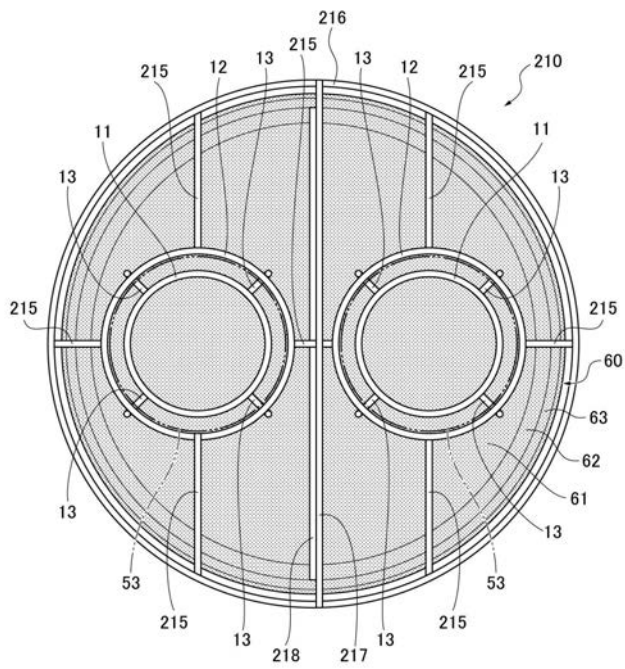
【図 5】



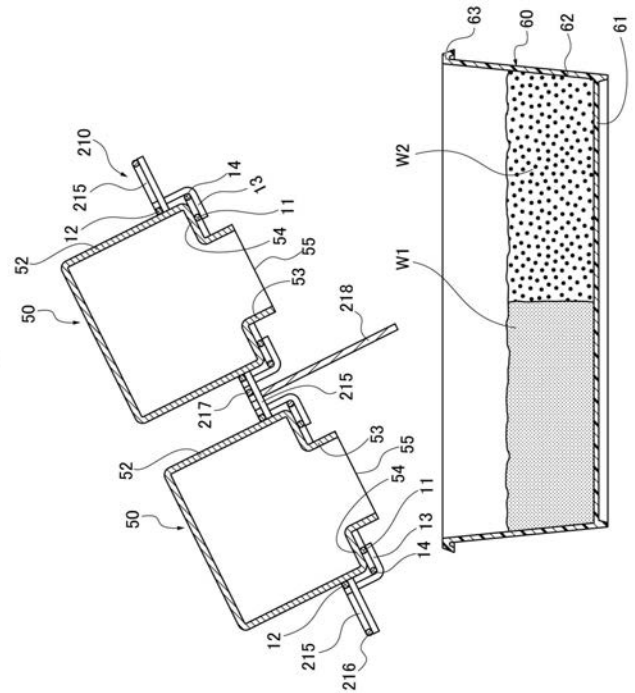
【図 6】



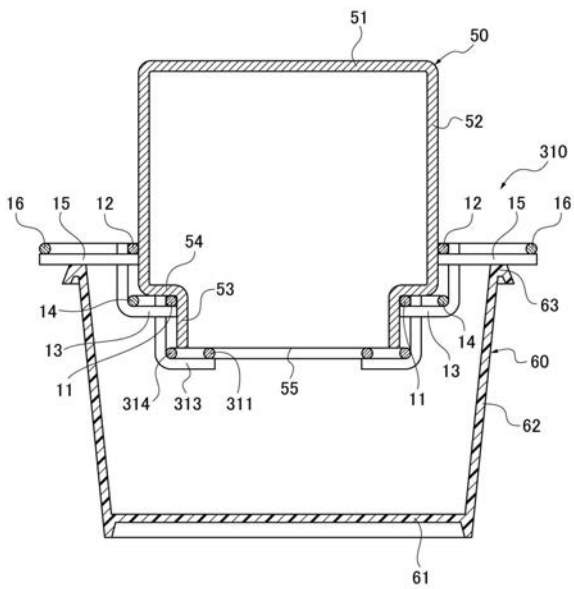
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

